

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	しまねけんりついずもこうとうがっこう				②所在都道府県	島根県
26～30	①学校名	島根県立出雲高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	学科：理数科、普通科 在籍者総数：948名 (平成25年5月1日現在)	
普通科	282	116	146		544		
⑥研究開発構想名	「自立」と「協働」により、地域・社会の核となるグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	『世界の持続的な発展に向けた創造的提案～国際社会に向けた出雲からの発信～』をテーマに、「社会」「自然」「ひと」の三つの切り口からアプローチする。質の高い英語教育・教養教育による「自立」した個人の能力育成と、海外の高校生との意見交換等「協働」的な学習により、「地域・社会の核となるグローバル・リーダー」を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>① 論理的思考力や国際社会に通用するコミュニケーション能力などの汎用的能力と、生まれ育った地域や国際社会に関する、幅広く、深い教養を備えた、「自立」した個人を育てる教育プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、他者の意見を取り入れながら自らの意見を構築できる力を養う。 ・英語を用いてディスカッションできる高度なコミュニケーション能力を養う。 ・現代の国際社会について、講義、体験的学習等を通して深く理解させる。 <p>② 他者との「協働」により、新たな価値あるものを創出し、国際社会に発信できる人材を育てる教育プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な背景を持つ人物の意見を受け入れ、相手の立場に立って理解する姿勢を育む。 ・自分とは異なる意見を批判的に評価しながら、協同的に意思決定していく力を養う。 <p>③ 世界の持続的な発展に向け、「自立」と「協働」により創造的提案をし、地域・社会の核となる、グローバル・リーダーとしての資質・能力を高める教育プログラムの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの経験を踏まえながら、国際社会が抱える様々な課題を発見する力を養う。 ・海外の高校生等との交流を通して、世界の持続的な発展に創造的提案をできる力を養う。 ・予測困難な国際社会を生き抜く、グローバル・リーダーとしての総合力を養う。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、島根県下でも有数の進学校であり、県内外から将来の地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成を期待されている。生徒たちの知的レベルは非常に高く、創造性に長け、柔軟な思考を持っているが、一方で、自主的、自発的に答えの見えない課題に向かって追究していこうとする姿勢に乏しく、積極性にやや欠ける。生徒の視野を拡大させ、グローバルな視点で物事を見つめる姿勢、世界が抱える様々な社会課題を自らの能力で解決するという使命感を育成していくことが目下の教育課題である。</p> <p>この現状を打破するために、平成25年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、普通科文系クラスも含めた全ての生徒が行う、協同的な学習による課題研究の実践を行ってきた。しかしながら、現状では生徒のグローバルな視野の拡大、英語によるコミュニケーション能力育成の取組は未だ不十分であり、より一層の拡充が求められる。島根大学との連携により、課題研究をはじめとしたSGHとしての教育プログラムを実践することで、幅広く、深い教養を身に付け、国際社会に対し創造的提案ができるグローバル・リーダーを育成できるものと考えます。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>「課題研究成果報告集」をまとめ、県内外関係諸機関に配付し、研究開発成果の普及を図る。また、本校ホームページ（平成27年度から外国語によるホームページを開設）上に公開し、順次発信していく。加えて県内の各種コンクール、コンテストに成果を多数出品するとともに、県内教員向け各種研修会等で事業内容を積極的に報告する。</p>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 『世界の持続的な発展に向けた創造的提案～国際社会に向けた出雲からの発信～』をテーマに、「社会」「自然」「ひと」の三つの切り口からアプローチする。生徒は以下の三つのゼミに分かれ、グループごとに小テーマを設定し、研究活動に取り組む。 a 国際政治・経済『世界の国々が関わり、支え合う、持続的な平和社会の構築に向けて』 b 環境・エネルギー・食農『世界の人々の持続的な暮らしを支える、環境・エネルギー・食農のこれから』 c 地域文化・多文化共生『多文化の中に生きる人間と、多文化共生の先に見える持続的な共存社会』</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 I 国際的な社会課題に対する専門性の高い講義及び体験的学習 島根大学教員を講師として、国際的な社会課題についての講義及び体験的学習を行う。この実践により、生まれ育った地域や国際社会に関する知識の定着度を評価する。 II グループごとに設定したテーマについての課題研究（平成26年度は先行実施） ゼミに分かれ、グループごとに設定した研究テーマについて研究活動を行い、結果を研究レポートにまとめ、発表する。ルーブリックを用いて研究成果を定量的に評価する。 III 双方向通信システムを用いた海外の高校生との意見交換の実施 サンタクララ高校等との双方向通信システムを用いた意見交換を実施する。国際的な社会課題についての意識、英語コミュニケーション能力の変容を評価する。 IV 海外研修における研究成果発表及び意見交換 サンタクララ高校等を訪問し、課題研究成果の発表、意見交換を行う。その他、グローバル企業等の訪問により、国際社会に対する意識や進路意識の変容を調査する。 V 課題研究成果を実際の行動に結び付ける学習（平成28年度から本格実施）</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ○ 普通科第2・3学年文系クラスを対象に「総合的な学習の時間」2単位分と「社会と情報」1単位分を学校設定科目「スーパーグローバル（SG）探究」3単位に代替する。 ○ 普通科第1学年全員を対象に「現代社会」2単位のうち10時間分を減じ、「スーパーグローバル（SG）パワーアップセミナー」を行う。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 I ディベート演習（一部の生徒は英語ディベート） 学校設定科目「SG探究」の单元として、論題に関する調査活動や論理展開の構築を行いディベート大会で実践する。ルーブリックを用いて汎用的能力を定量的に評価する。 II 高度な英語コミュニケーション能力を育成するための取組 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「英語表現Ⅰ・Ⅱ」において、各単元のまとめと発展の活動として英語の4技能をバランスよく伸ばす取組を実施する。作成された成果物の情報量や正確さ、表現活動に取り組む積極的姿勢等により評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 I サンタクララ高校等との姉妹校提携による留学等促進、留学生等の受け入れの促進 II 英会話部の活動の充実（英語ディベート大会、スピーチコンテストへの参加） III 各種コンクール、コンテストへの参加（英会話部の活動以外）</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、第1学年において「スーパーサイエンス（SS）基礎」（学校設定科目）を設け、論理的思考力など個人の汎用的能力を育成するプログラムをすでに実践している。また、課題研究発表はSSHと合同開催とし、互いに意見交換する場を設ける。このように、SSHとSGHのプログラムの融合により、より質の高い課題研究活動が期待される。</p>

ふりがな	しまねけんりつしずもこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	島根県立出雲高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120 人
	SGH対象生徒以外:	不明	96 人	人	人	人	人	人	72 人
目標設定の考え方: 学校全体として、現在の倍増を目標とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	8 人
	SGH対象生徒以外:	4 人	4 人	人	人	人	人	人	4 人
目標設定の考え方: H27年度の海外の高校との姉妹校提携により数を伸ばし、最終的には現在の3倍増を目標とする。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50 %
	SGH対象生徒以外:	不明	27 %	%	%	%	%	%	38 %
目標設定の考え方: SGH対象生徒については、最終的に50%を目標とする。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	18 人
	SGH対象生徒以外:	3 人	12 人	人	人	人	人	人	6 人
目標設定の考え方: 県英語イベント大会での連続1位(全国出場)をはじめ、その他の大会も含めた入賞者の倍増を目標とする。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	10.0 %
	SGH対象生徒以外:	2.5 %	2.3 %	%	%	%	%	%	7.0 %
目標設定の考え方: SGH対象生徒については、GTEC680点以上の割合を最終的に10%まで引き上げる。									
将来、地域・社会のリーダーとして活躍したいと考える生徒の割合(本校の教育目標)									
f	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50 %
	SGH対象生徒以外:	不明	26 %	%	%	%	%	%	38 %
目標設定の考え方: SGH対象生徒については、最終的に50%を目標とする。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	43 %
	SGH対象生徒以外:		27 %	27 %	%	%	%	36 %
目標設定の考え方: 学校全体として、現在の1.5倍増を目標とする。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	2 人
	SGH対象生徒以外:		0 人	0 人	人	人	人	0 人
目標設定の考え方: 家庭の経済事情等考慮すると数を大幅に増やすことは望めず、毎年2人を目標とする。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		-	-	%	%	%	80 %
目標設定の考え方: 卒業した生徒の大半(8割)がそのように感じられるよう、質の高い課題研究を実践する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10 人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	6 人
目標設定の考え方: SGH対象生徒については、最終的に毎年10人を目標とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方：H26年度から希望者による海外研修を開始し、最終的には20人の参加を目標とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方：H28年度から第3学年SGH対象生徒に対して、連携大学における講義等の研修を始める。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	8校
目標設定の考え方：H26年度から海外研修、双方向通信システムで交流を始め、最終的に高校5校、大学3校を目標とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	45人	127人	人	人	人	人	人	350人
目標設定の考え方：H26年度から第1・2学年を対象に講義・巡回指導を依頼する。H28年度からは第3学年も対象となる。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	12人	3人	人	人	人	人	人	26人
目標設定の考え方：研究活動の過程で企業関係者等からの講評をいただく。H28年度からは第3学年プログラムにも参画いただく。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	48人	54人	人	人	人	人	人	85人
目標設定の考え方：H27年度からの英語ディベートの取組で大会参加者数拡大を図り、その他の大会も含め30人増を目標とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	不明	11人	人	人	人	人	人	15人
目標設定の考え方：H27年度からは海外の高校と姉妹校提携し、留学生受け入れを促進する。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	3回
目標設定の考え方：県内外の研究発表会において、年3回の研究発表を目標とする。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている	△一部整備されている	×整備されていない					○
目標設定の考え方：H26年度に準備を始め、H27年度から開設し、その後定期的に更新を行う。								
「SG探究」のディベート演習において英語ディベートを行う生徒の数								
j	-	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方：「SG探究(第2学年対象)」の本格実施であるH27年度は20人とし、最終的には40人を目標とする。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	947	948					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							